



取締役頭取

大城勇夫



GREETING ごあいさつ

皆さまには、平素より、琉球銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

今年も、多くの皆さまに琉球銀行をより一層理解していただくために、「琉球銀行の現状」(2010年版ディスクロージャー誌)を作成しました。

国内経済は、輸出が中国などのアジア向けを中心に増加が続き、個人消費も政府のエコカー減税・補助金と家電エコポイントにより増勢が続いたことから、全体として緩やかな持ち直し基調を続けました。

県内経済は、個人消費と建設がエコカー減税・補助金や家電エコポイント、公共工事の前倒し発注といった政策効果の下支えにより一部で持ち直しの動きがみられたものの、観光において入域観光客の大部分を占める国内客が減少したことから、全体として後退を続けました。

このような環境のもと、平成21年度は、年度の目標として「公的資金の完済を目指した利益確保と収益基盤の強化」を掲げ、顧客基盤の強化を図る「チャンネル革命」を達成するために、営業チャンネルの拡大、新たな商品・サービスの開発などに取り組んだほか、厳しい経済環境が続くなか、中小企業者を中心とした資金繰り支援に積極的に取り組み、平成22年7月に公的資金を完済しました。

平成22年度からスタートする新中期経営計画「RISING PLAN 2010」では、お客さまとの間に多様なチャンネルを構築し、非価格競争力の強化を図る「営業革新」、営業革新を実現するための人材を育成する「人材革新」、抜本的な業務効率化により営業現場を支援する「機能革新」を柱に収益力の強化に繋がる顧客基盤の拡大を図ってまいります。

琉球銀行はこれからも、激変を続ける金融・経済環境の変化や多様化するお客さまのニーズに的確に対応し、地域社会の発展に寄与する銀行として沖縄県経済の成長とともに歩み、沖縄県のリーディングバンクとしてお客さまからの信頼と支持をいただけるよう努めてまいります。

平成22年7月